

今週の為替相場見通し(2025年12月8日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		154.34 ~ 156.21	155.33	154.00 ~ 157.00
ユーロ	(ドル)		1.1589 ~ 1.1682	1.1644	1.1500 ~ 1.1800
(1ユーロ=)	(円)		180.17 ~ 181.43	180.85	179.50 ~ 182.50
英ポンド	(ドル)		1.3180 ~ 1.3385	1.3333	1.3100 ~ 1.3600
(1英ポンド=)	(円)	*	205.21 ~ 207.36	207.06	200.00 ~ 210.00
豪ドル	(ドル)		0.6536 ~ 0.6649	0.6639	0.6580 ~ 0.6710
(1豪ドル=)	(円)	*	101.51 ~ 103.20	103.16	102.00 ~ 104.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

国際為替部 為替営業第一チーム 山本 裕太郎

(1)今週の予想レンジ: 154.00 ~ 157.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

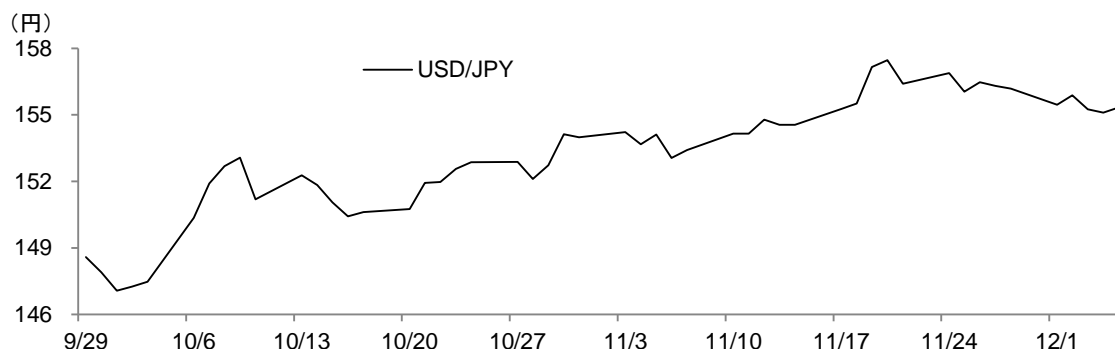
先週のドル/円は日銀の12月利上げ期待の高まりから週後半にかけて円が買われる展開。週明け1日のドル/円は155.91円でオープン後、植田日銀総裁の会見から12月利上げが意識されると円が買われ155円を割り込んだ。海外時間にかけては米株先物の下落からリスク回避が先行も155円を割り込む場面では押し目買いも見られ155円台半ばまで反発した。2日のドル/円は東京時間、前日の流れを引き継ぎ円が買われるも155円半ばでは底堅く、海外時間にかけて156円台まで上昇した。3日のドル/円は東京時間、仲値にかけドルは買われ155円台後半まで上昇もその後は軟調。NY時間には米11月ADP雇用統計の軟化から米利下げ期待が高まるとドル/円は155円割れを試した。4日のドル/円は東京時間、日銀の12月利上げを政府も容認との報道から154円台半ばまで下落。NY時間には米新規失業保険申請件数の良好な結果と米金利の上昇からドルは買われ155円台前半まで反発した。5日のドル/円は東京時間、日銀が12月利上げ後も利上げ姿勢を継続との報道から円買いが先行し154円台半ばまで下落、海外時間にかけて一時週安値の154.34円をつけた。NY時間には米12月ミシガン大学消費者信頼感指数が予想値を上振れ、ドル/円は155円台半ばまで上昇、155.33円でクローズした。

今週のドル/円はFOMCを控えて小動きのなか、週後半にかけては堅調地合いを維持しつつも上値は重い展開を想定する。まず円サイドでは9日(火)に予定される植田日銀総裁の講演と10年債利回りの行方に注目。今週も先週に続き政策金利の上昇期待とタームプレミアムの上昇が長期金利を押し上げやすい環境が続き、ドル/円の上値を抑えるだろう。加えて、9日(火)に予定される植田日銀総裁の講演にて12月以降の利上げや中立金利の上方修正が示唆された場合、更なる利上げ期待とターミナルレート上振れ観測から10年債金利は2.0%に到達する事は十分に考えられ、その場合には円買い要因となろう。また、ドルサイドでは、FOMC後のパウエルFRB議長会見とドットチャートに注目したい。パウエルFRB議長の会見ではインフレの上振れリスクに言及するか、またドットチャートでは、前回発表された来年末の予想政策金利中央値3.375%の変化が焦点となる。市場の折り込み具合から12月利下げは確実も、強い物価指標とこれまでのFRB高官の発言からタカ派利下げを想定しており、FOMC後はドル買いが先行すると予想している。総じて、今週のドル/円はFRBのタカ派利下げを背景に底堅い一方、日本の金利上昇が上値を抑える構図を予想する。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/1~12/5)の値動き:

安値 154.34 円 高値 156.21 円 終値 155.33 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

国際為替部 為替営業第二チーム 大島 経貴

(1) 今週の予想レンジ: 1.1500 ~ 1.1800 179.50 ~ 182.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは堅調な推移。週初1日、1.1602でオープンしたユーロ/ドルはNY時間入りにかけてドルの全般的な下落、独金利が下支えとなり1.1653まで急騰。買いが一巡すると、上昇した米金利が重しとなりオープン時と同水準まで下落した。2日、ユーロ/ドルは米金利上昇を材料に一時下落も、概ね1.1610付近での小動き。ユーロ圏11月消費者物価指数は概ね予想通りの結果となり、無風での通過となった。3日、オープン時より堅調な値動きを見せたユーロ/ドルは、米11月ADP民間雇用者数の発表を受け10月下旬以来の水準となる1.1677まで続伸。その後米11月ISM 非製造業景況指数発表後の米金利上昇を受け小幅に反落も、再び1.1670台へ上昇した。4日、ドル安の流れから週高値となる1.1682をつけるも、米11月チャレンジャー人員削減数、米新規失業者保険申請数の市場予想比好調な結果を受け反落した。5日、海外時間入りにかけて1.16台後半へ上昇も、米金利上昇を受け反落。その後は1.16台半ばでの小動きとなり1.1644でクローズした。

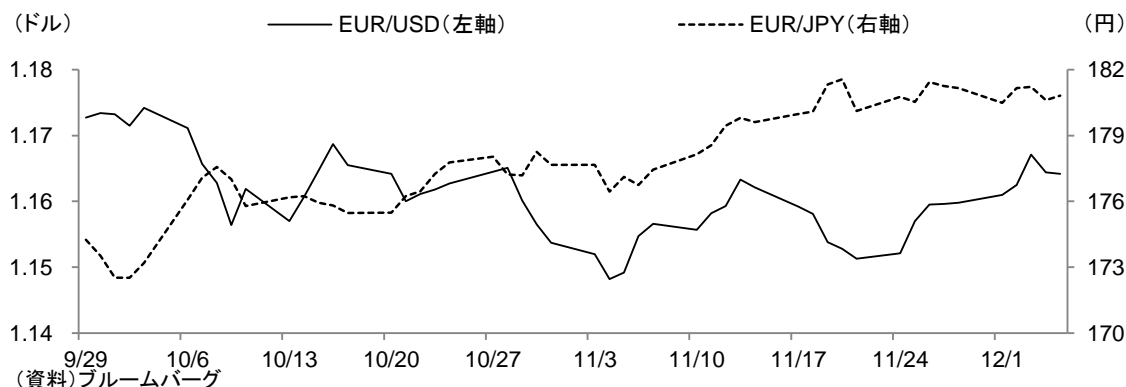
今週のユーロ/ドルは底堅い推移を予想する。ユーロ圏 11月消費者物価指数は、総合、コアともにインフレ目標である2%付近での落ち着いた結果。ラガルドECB総裁も不透明感が高い状況の持続に言及しつつも、今後数か月、インフレ率は目標付近に留まるだろうと発言。追加利下げ見送りを見込むECBの政策金利見通しは不変で、ユーロ相場を下支えするだろう。強いて懸念材料を挙げるならば、ウクライナを巡るロシアとの関係性だろうか。EUがロシアの凍結資産押収、ウクライナ支援への活用を検討する動きに対し、ロシア側から強い反発が生じている。地政学的リスクが高まればユーロ相場への下押し圧力となろう。もっとも、今週の焦点は米国サイドは9日(火)～10日(水)に予定の12月FOMCだろう。本会合での▲25bp利下げは市場で織り込み済み。注目点はドットチャート及びパウエルFRB議長会見で示される2026年以降の利下げパスに対する示唆だろう。9月FOMC以降、米政府閉鎖の影響より新たに入手したデータが限定的であり、極端な意見が示される可能性は低いと思料される。とすれば、ユーロ/ドルへ与える影響も限定的だろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/1～12/5)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1589 高値 1.1682 終値 1.1644

(対円) 安値 180.17 高値 181.43 終値 180.85



3. 英ポンド

欧州資金部 天沼 幹

(1) 今週の予想レンジ: 1.3100 ~ 1.3600 200.00 ~ 210.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間の英ポンド相場は、対ドルで上昇した。2日、OECDが英国の成長について増税と歳出削減によって逆風とコメントしたことで一時英ポンド売りで反応。一方で、OECDは2026年英成長予測を+1.0%から+1.2%に上方修正している。3日、英11月PMIが確報値で上方修正され、全体的に英ポンド高で推移した。週を通して米利下げ観測を背景にドルが弱含み、相対的に英ポンドは強含んだ。

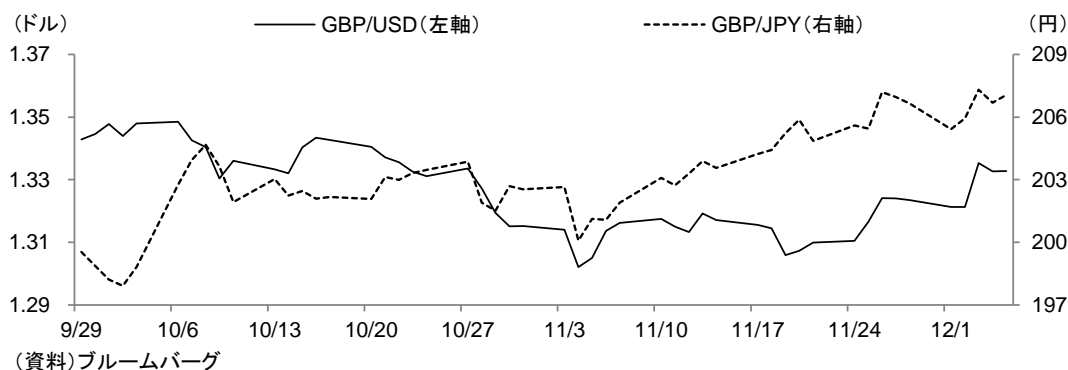
今週の英ポンド相場は、上値重い展開を想定。英国サイドでは主だった経済指標の発表は予定されていない。米国サイドでは利下げがほぼ織り込まれる中、10日(水)にFOMCが予定されている。英ポンドは好調の経済指標に支えられて堅調推移したものの週末に向けて上値が重い展開となった。スワップ市場でも米利下げはほぼ織り込まれており、イベント通過後に新たな材料がなければ巻き戻される可能性がある。オプション市場を見ると向こう一週間は1.3267から1.3445の値幅が想定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/1~12/5)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3180 高値 1.3385 終値 1.3333

(対円) 安値 205.21 高値 207.36 終値 207.06



4. 豪ドル

国際為替部 為替営業第二チーム 山田 隆広

(1) 今週の予想レンジ: 0.6580 ~ 0.6710 102.00 ~ 104.00 円

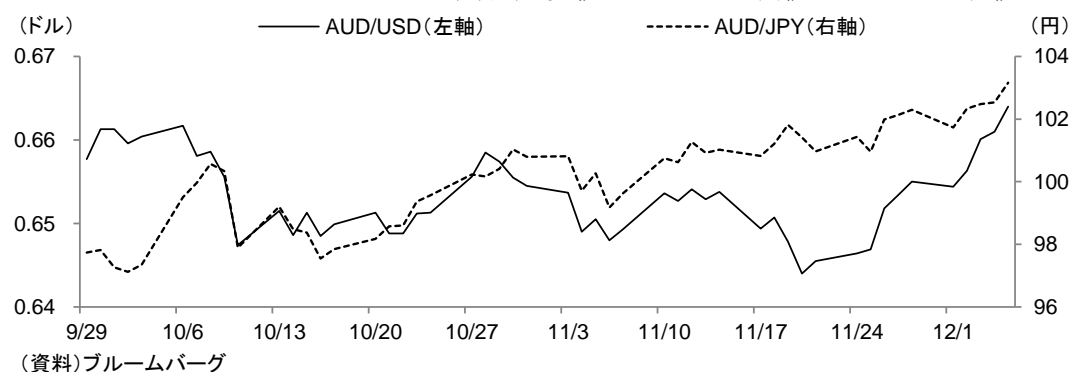
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは底堅く推移。週初1日、豪ドルは0.6553でオープンし、2日にかけて新規材料に乏しい中、週安値0.6536をつけつつ0.65台半ばで方向感なく推移。3日、ブロックRBA総裁が、議会証言において足許のインフレ圧力次第でRBAが引き締めの金融政策へと方向転換する可能性を指摘。豪7~9月期GDPは前年比+2.1%と市場予想を下回る結果となったものの、RBAの利上げ路線への転換の思惑から豪ドル/ドルは0.66台に上昇。4日、発表された豪10月貿易収支が市場予想はわずかに下回るも黒字幅が前月から拡大していたことなどを好感し、豪ドルは0.66台前半で下値堅く推移。5日、引き続き豪ドル買い優勢の展開に、豪ドルは週高値0.6649まで上値を伸ばしたのち、小幅に下落し0.6639で越週。

今週の豪ドル相場は引き続き堅調に推移すると予想。インフレ再燃を警戒したタカ派姿勢へと傾きやすいRBAと、当面は利下げ路線の維持が見込まれるFRBとの対比から、豪ドルが買われやすい地合いとみる。今週は9日(火)にRBA会合が予定されており、OIS市場では政策金利据え置きが織り込まれている。前回10月会合では全会一致で利下げ見送りが決定、声明文ではインフレ率の高止まりに警戒感が示されたほか、ブロックRBA総裁は会合ごとに金融政策を判断していく姿勢を示した。こうした状況下先月末に発表された豪10月CPIにてインフレ加速が確認されたことなどからインフレ再燃が強く意識されており、RBAが利上げに向けたフォワードガイダンスを提示する可能性を考慮に入れておきたい。このほか、11日(木)には豪11月雇用統計の発表が控えており、労働需給のひっ迫が確認された場合には豪ドル買いのサポート材料になると思われる。片や米国サイドでは、10日(水)に控えるFOMCにおいて追加利下げが織り込まれており、会合終了後は金融政策の違いから素直に豪ドルが買われる展開となろう。もっとも、今後のFRBの利下げペースについてはデータ次第の側面が強いと考えられるも、更なる利下げを強く要求すると思われるトランプ米大統領や次期FRB議長を巡る思惑に対するけん制などから、想定以上にタカ派的なコミュニケーションがなされる可能性は拭えず、ドルが買い戻される展開には警戒。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/1~12/5)の値動き: (対ドル) 安値 0.6536 高値 0.6649 終値 0.6639
(対円) 安値 101.51 高値 103.20 終値 103.16



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。